

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校 第5学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生学力調査から、「思考・判断・表現」の項目が平均よりも低いことが分かった。また、授業でも、文の主語述語・修飾語の文節の理解が低く、文を書くことが苦手な児童が多くいることが分かった。 ・漢字の読み書きに自信をもって取り組める子は全体の2割程度である。 ・物語文の登場人物の気持ちを読み取ったり、内容を読み取ることは8割の児童が80%程度の正答率をとれている。 ・読書は熱心に取り組んでいるが、読む本が偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る際に、主語や修飾語がどの言葉にかかっているのか確認し、理解を深める。また、文章を書くときには、読み取りの学習で学んだことを思い起こして書けるように、声かけや掲示をする。 ・2週間に1回程度、定期的に漢字の小テストを行い、知識の定着を図る。クロムブックの漢字練習ソフトを使って、繰り返し練習し、定着を図る。 ・図書では、図書支援員の方と連携し、多くの書籍の楽しさを知ってもらえるよう読み聞かせやブックトークを充実させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の中から必要な情報を見付けることが苦手である。 ・学年全体の約半数の児童がグラフの読み取りが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験や他教科の既習事項などを関連させた振り返りや単元の導入場面を設定する。 ・授業の中で積極的にグラフを読み取る機会をつくり、グラフを読み取る3つの視点を段階的に指導していく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算では、単元末テストにおいて学年の平均正答率が6割程度となっており、達成率が7割以下C層、D層が全体の25%いる。 ・小数のわり算では、単元末テストにおいて学年の平均正答率が6割程度となっており、達成率が7割以下C層、D層が全体の半数近くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業で、計算をするときなどにかけ算の筆算の手順を位ごとに色分けして視覚的に提示する。また、必要に応じて、筆算のしかたカードを渡して、手元ですぐに確認できるようにする。 ・かけ算の筆算を使う際には、「たてる・かける・ひく・おろす」の計算の手順を色分けした板書で視覚的に分かりやすく提示した上で、小数点の移動や、末尾の0の処理などを確実にできるように個別指導する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・2事象の比較から分かる違いに気付くことはできる。 ・条件を制御した実験方法を考える部分は教員の支援が必要である。 ・実験結果から考察し、自分の言葉でまとめられる児童は約1割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前に必ず復習することで理解の定着を図る。 ・実験計画を考える際に、どの条件を、どのように変えるか細かく確認しながら進めるようにする。 ・話し合い活動やその時の大切なキーワードを明確にして、考察が書けるよう支援する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・時期的に歌唱・リコーダー指導が十分にできなかったため、自然で無理のない発声や遠くに響き歌声。響きのあるリコーダーの息使いができていない児童が多い。 ・鑑賞の学習では音楽全体の雰囲気を感じることはできるが、音楽の要素に焦点をあてて聴き取ることに課題がみられる。 ・音楽の仕組みについて理解が不十分な児童が30パーセントほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞やサイレント奏法でイメージをもたせながら、時期がきたら指導する。 ・音楽の要素をしっかりと聴き取り、それらを生かして音楽表現をしたり、鑑賞をしたりする学習を取り入れる。 ・意識的に音楽の仕組みや要素を指導していく。 ・鑑賞では、国語で学習した話型や文型を意識して鑑賞カードに書かせる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の扱い方が身に付いていない児童がいる。 ・表現したいことを見つけれない児童が多い。 ・構想を練り、自分の考えやを深めることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士での教え合い活動(得意な子から不得意な子への教え合い、声かけなど)や個別指導を取り入れていく。 ・たくさん褒めることや、それぞれの運動の特性や楽しさを味わわせる。場や授業展開を工夫することで、「楽しそう」「やってみたい」をより多く引き出し、どの運動にもすすんで関われるようにする。学習カードで自分の目標を設定し、意欲を引き立てる。 ・コーディネーショントレーニングを通して、体をイメージ通りに動かすことができるようにする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン縫いや裁縫道具の扱いなどにおいて、実生活での経験が乏しく、学年全体の約20%の児童は一人では難しく、支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、学年便りやホームページなどで活動のしたことを伝える。また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・反復横跳びや立ち幅跳びなど、動きの経験が少ない種目の数値が都平均より5ポイント程度低い。(昨年度の体力テストの結果より) ・自分の課題を見付けて改善点を見付けることができるが、実践に結び付けることが難しい。 ・運動の得意不得意の二極化が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が見つかった時に、改善点を丁寧に見出しながらコツを分かりやすく伝えるようにする。 ・技能のポイントを掲示したり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な運動を経験させる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングは得意な児童が多いが、発音することを恥ずかしがり、声がかさいことがある。 ・スペルやアルファベットの書き間違いが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム等を通じて外国語の楽しさに触れ、自然と声が出るように授業をしていく。 ・4線が書かれたワークシートや教科書を活用して、正しい字形を正しく書く時間を1単元で1時間取り入れる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えたことを全体で発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもたせてから、少人数での意見交流を入れることで考えを発表しやすくする機会を設ける。 ・ワークシートを毎時間使用することで振り返る時間をとる。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の手段がインターネットに頼りがちになる。 ・調べた内容が調べられたら、そこで満足してしまい、次の活動や発想の広がりにつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立図書館や図書支援員とも連携を図り、情報収集に必要な資料を事前に集め、児童に提供できるようにする。 ・地域へのインタビューやアンケートなど、様々な方法で調べさせる。 ・情報交換の場を意図的に取り入れ、探求活動が深まるよう支援する。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。